「間」：休みから熟成タイムへ

札幌市医師会
札幌清田病院
後藤（ごとう）　義朗（よしろう）

昨秋、全道中学校英語暗唱大会を見学した。出場者は教科書の数ページ分を暗唱して発表するが、まさに「読み聞かせ」だ。話の中核では音の強弱、高低を変え、また、話し言葉が入るとその役柄となる。発音は日本人が苦手なＬとＲの使い分け、Thの発音がチェックされる。筆者も徐々にのめり込み「にわか審査員」になった。また、話すスピード、文章と文章の区切りでの「間」の大切さを実感した。聴衆は日本語脳で英語を処理するために時間が欲しい。できれば自分の頭を英語脳に切り替えてそのまま受け取ればいいのだが、そう簡単にはいかない。進行するにつれ筆者も英語脳に切り替わってきた。喜んでいたのも束の間、大会終了とともにフェードアウトしたのは悲しい。

英語脳の集中力は長くは続かない。審査員にも聴衆にも休憩の「間」が必要だ。その時間を利用し廊下で準備をする生徒もいた。監督する指導教師の熱心さに感心しながら、筆者は腰を伸ばすため階段昇降していた。

教育文化会館の２Ｆに中野北溟記念室[1]を見つけた。百寿を越えた書道家の中野北溟氏が731点の書を寄贈したことで昨年４月にオープンした常設展示室だ。思い起こすと、筆者は中学時代に習字の授業を中野先生から受けていた。先生がダンスをするように書を書いていた。大事なのは、実際の字（実画）だけでなく字画の間の流れ、つまり「空画」が大事と熱弁を振るっていた。ただし、「実画」が上達しない無才能の者には、その意味すらも理解できなかった。自由創作の時間があり「煙」の文字を選んだ。細身の筆で薄墨を使い、細長にして空に立ち上るように、空画を生かしてフラフラと書いた。これで初めて○をもらい教室の掲示板に貼られたのだ。最初で最後の事件（？）なので脳裏に刻まれていた。「空画」の言葉も残っていた。また、ある和菓子屋で額に納められ書を発見した時は懐かしかった。どらやきの袋の字もそうだ（**写真**）。別の機会に、ある琴の社中のプログラムに先生の揮毫があった。千歳鶴のラベルも、「柴田」の一升瓶のラベルも先生の書なのだ。ただ、最近「柴田」が入手困難となって残念だ。

音楽における「間」は、中学生の音楽教材によると、「拍の頭から次の拍の頭までの時間的な距離。休拍や休止部分を指すこともある」とあり、英語でもrest、文字通り「休み」という扱いだ。

ただ、音楽的には休符は単なる休みではなく、無音の音を出す。日本音楽能力検定協会の定義では[2]、休符は“音を出さない時間”だが、音楽を音楽たらしめる要素という。リズムの呼吸「音」との対比、グルーブ感、つまりノリを生む。ライブ演奏でも必ずしもリズムは一定ではない。休みやタメを作ることで表現の幅も拡がる。だから、楽曲のサビ前に休みを入れたり、曲のテンションを下げたり、最終的にサビへつなげる。

ベートーベンの「運命」の冒頭のように、休符が入ることが「圧」を生むという。頭の中で冒頭の音を想起してみた。

♪ジャジャジャジャーン　ジャジャジャジャーン♪　その後全休符二個

演芸にも「間」が大切である。落語や講談、演劇でも会話の流れやテンポにおいて、間の取り方で熟練度が評価される。「笑点」の元司会者の桂歌丸によると、噺家にとって「大事なものは『間』で、弟子に噺は伝えても『間』は伝えられず、これは自分でこしらえるしかない」と言っている[3]。間はリズムを作り、相手に考える時間を作る。そして情景を思い浮かばせ、沈黙を楽しむことで、話を理解し共感できる状態を作り上げるのである。

一方、「間」が長くなると「間延び」する。その一例が電子カルテだ。１コマンドに対しての反応時間が長く、日本語変換が遅れる。筆者の思考の流れが淀み、結果的に診療時間の延長につながる。パソコン並みのスピードを期待する方が悪いと、こちらが譲歩すべきなのか。本来、漫才のように相互の働きかけの間があって仕事の効率が上がる。画像データは画素数が多く、閲覧まで処理時間がかかることは理解できるが、処方の方がむしろ遅い。電子カルテは独自の「間」を持ち、決して譲歩しない。結果的に人間を従わせるから、使い手のストレスだけ増す。それは「間」違いだ。

スポーツでは、持ち前の力を発揮するため、間を「ため」へ移行させる。ゴルフや野球のバッティングなどにも大切な点で、実力がさらに熟成される。

ところで、間が上手に取れないことを「間抜け」という。語源をたどると、間は演芸の場での時間の休止、長短、さらに拍子やテンポの意味で、「間抜け」はテンポが合わないこと。転じて、行動に抜かりがあり愚鈍な人を罵る言葉になった[4]。

多職種間の関係構築のためにもコミュニケーションが要となるが、その際も「間」は大事な要素だ。今後も間抜けにならないよう、さらに円滑にする「ため」につなげていきたい。

＜参考＞

１）中野北溟記念室／札幌市
２）【休符の美学】音楽における休符の重要性をジャンル別に解説／日本音楽能力検定協会
３）vol. 022「落語家にとって一番大事なのは「間」」 - PLAZA INTERVIEW
４）間抜け／まぬけ - 語源由来辞典